

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2020



所属： 人文学部 人文学科 キャリア・イングリッシュ専攻

名前： 坂根シルック (Sirku Sakane)

作成日：2020年10月16日

九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名： 坂根シルック (Siraku Sakane)
所属： 人文学部 人文学科 キャリア・イングリッシュ専攻

1. はじめに

専任教員として着任した2019年度から、本学のグローバル教育に携わっている。東京において、長年グローバル企業を含む外資系企業で勤務してきた経験を活かし、学生の視野を広げ、世界の多様な文化や習慣、価値観や考え方を知り、自ら考え、自分らしい人生の選択ができるよう手助けをしたい、という想いで授業を行っている。

2. 教育の責任

私は人文学科のキャリア・イングリッシュ(CE)専攻に所属しているが、CE専攻の専門科目に加え、共通教育科目も担当しており、他学科や他専攻の学生も教えている。また、2020年度からはグローバルセンター長として、海外で学びたい学生たちのサポートも行っている。

2.1. 授業科目の担当

2018年～2020年度の3年間は以下の表の科目を担当している。

科目名	対象学年	開講年度時期	履修者数	備考
英語I(心理)	1年	2019年度・前期	25	共通教育
フレッシュマン・ゼミ	1年	2019年度・前期	11	共通教育 オムニバス形式で 7コマ担当
グローバル・スタディーズ	1年	2019年度・前期	179	共通教育 (オムニバス形式、 2コマ担当)
海外留学A(韓国)	2～3年	2019年度・前期	1	共通教育 (オムニバス形式、 2コマ担当)
海外留学B(英国)	2～3年	2019年度・前期	2	共通教育 (オムニバス形式、 2コマ担当)

英語 II	1 年	2019 年度・後期	31	共通教育 (心理臨床学科)
英語 II	1 年	2019 年度・後期	34	共通教育 (保育コース)
特別研究	3 年	2019 年度・後期	8	専門教育
聖書英語	3～4 年	2019 年度・後期	7	共通教育
異文化体験学修	2～3 年	2019 年度・後期	11	共通教育 (オムニバス形式、 2 コマ担当)
グローバル・ スタディーズ I	1 年	2020 年度・前期	95	共通教育 (人文学科)
フレッシュマン・ ゼミ	1 年	2020 年度・前期	11	共通教育
英語 I	1 年	2020 年度・前期	21	共通教育 (心理臨床学科)
海外留学 A(韓国)	2～3 年	2020 年度・前期	0	共通教育 (実施できず)
海外留学 B(英国)	2～3 年	2020 年度・前期	0	共通教育 (実施できず)
異文化体験学修	2～3 年	2020 年度・前期	0	共通教育 (実施できず)
グローバル・ スタディーズ II	1 年	2020 年度・後期	64	共通教育 (心理臨床学科)
英語 II	1 年	2020 年度・後期	23	共通教育 (心理臨床学科)
英語 II	1 年	2020 年度・後期	33	共通教育 (保育コース)
特別研究	3 年	2020 年度・後期	9	専門教育
卒業研究	4 年	2020 年度・通年	8	専門教育

■ 主要担当科目

着任した 2019 年度は、主に英語の科目を担当していたが、2020 年度からは 1 年次の必須科目である「グローバル・スタディーズ」や、海外で学ぶ「海外留学」「異文化圏体験学修」などのグローバルな科目を主に担当している。

「グローバル・スタディーズ」では、異文化理解、社会のグローバル化、社会責任をメインテーマとし、国連の接続可能な開発目標（SDGs）にも関連付けながら、世界で起きている課題を自分ごととして考える力を養っている。また、熊本県内で多様に活動されている講師を招き、より多角的に視野を広げ、将来に繋げられることを目指している。

「異文化体験学修」では、2020年度の春から新たな体験学修プログラムを始める予定だったが、世界的に広がったコロナウイルスのため、延期となった。

2021年度からは新たに、「異文化理解」と「アドバンスト・グローバル・ビジネス」の科目を担当することになる。どちらの科目でもグローバルな視点を持ちながら、ローカルでも活躍できる力を育めるよう、授業内容や実施方法を計画している。

学部での教育以外には、以下のような活動を行っている。

■ 講師

2019年度に本学に着任する前から、フィンランドの社会文化や教育、子育てなどに関連した講演を行っている。

	講演テーマ	委託団体
2018年 5月	「日本と比較～フィンランド流の子育て・働き方・生き方」	三鷹市国際交流協会 (東京都)
2018年 5月	「フィンランド流子育てと働き方」	日本福音ルーテル大岡山幼稚園 (東京都)
2018年 6月	「異文化コミュニケーションと国際理解」	九州ルーテル学院大学 (熊本市)
2018年 6月	「フィンランドの働き方から考えるダイバーシティ」	協和発酵キリン株式会社、本社「ダイバーシティセミナー」 (東京都)
2018年 7月	「誰もが『個』として尊重される社会へ」	関東ブロック母子生活支援施設研究協議会 (東京都)
2018年 9月	「個を大切に豊かに生きる」	日本福音ルーテル藤が丘教会 (横浜市)

2018年 11月	「自分らしく生きるヒント～フィンランド流暮らし方、働き方、子育て」	小金井市男女共同参画課（東京都）
2018年 12月	「フィンランドの子育てと働き方」 ワークショップ：「自己のアイデンティティと向き合う」	新渡戸文化短期大学（東京都）
2018年 12月	「フィンランドにおける子育て文化の発展」 『子どものこころの健康を考えるシンポジウム ～ 子育て文化を考える』 （パネリストとして参加）	公益社団法人日本精神神経科診療所協会 児童青少年問題関連委員会（東京都）
2019年 2月	「あなたの暮らしが変わる？～フィンランド流幸せのヒント」	台東区男女共同参画課 「平成30年度男女共同参画推進講座」 （東京都）
2019年 3月	「日本とフィンランドにおける『働き方』の違い ～ 社会の背景や価値観から考える」 「働き方とワークライフバランスを考える」 （パネリストとして参加）	公益社団法人応用物理学会 男女共同参画委員会「春季学術講演会 特別シンポジウム」 （東京都）
2019年 6月	「世界一幸せな子育てと働き方」	江戸川区男女共同参画 「平成31年度男女共同参画週間記念講演会」 （東京都）
2019年 9月	「自分らしく生きるには～フィンランド流ライフスタイル」	キリスト教保育連盟関東部会「保育者のための講演会」（東京都）
2019年 11月	「フィンランドに学ぶ豊かな暮らし」	公益財団法人仙台市産業復興事業団「日本フィンランド修好100周年記念イベント」(仙台市)
2019年 12月	「フィンランドの文化・生き方について」	佐賀県文化・スポーツ交流局文化課「フィンランド・ウィーク」（佐賀市）
2020年 1月	「フィンランドの豊かさ～子育て・教育・働き方」	九州産業大学 北欧デザイン研究会「東日本大

		震災チャリティーイベント「北欧展」(福岡市)
2020年 2月	「フィンランドの生き方から考える～あなたがあなたであるために」	社会福祉法人ベデスタ 奉仕女母の家 茂呂塾 保育園(東京都)
2020年 7月	「『世界一幸福な国』に3年連続で選ばれたフィンランドって、どんな国?」	くまもと県民カレッジ 「キャンパスパレア」

2.2. 教育組織運営

2019年度はグローバル委員、2020年度からはグローバル委員長を兼ねたグローバルセンター長、及び地域連携推進委員の役目を担っている。

3. 教育の理念

九州女学院として創立された当初から、本学は英語教育と一緒にグローバル教育を大事にしてきた。社会がグローバル化する中、英語教育に対する期待もどんどん増している。しかし私は長年、多国籍の人々とチームを組んで仕事をしてきた経験から、語学力と同様に、場合によってはそれ以上に必要となるのは、自分と同じように異なる人をも尊重し、相手の文化や習慣を理解しようとする姿勢や意識であると感じる。

また、グローバルに視野を広げることは、英語を使った仕事に就く場合や、海外との関わりがある場合に限ったことではなく、どの学科や専攻で学ぶ学生にとっても、社会に出る前に、身に着けるべく大事なスキルだと考える。その為、担当する全ての教科において、次のことを大事にしながら授業を行っている。

3.1. 多様性を尊重する

地元熊本出身の学生が多い本学では、価値観や考え方が似通る傾向がある。「こうあるべき」事柄が多い環境で育った学生たちは、容易に異なる意見を発言できないため、自分の意見を述べるのが苦手だと感じる。そのため、どのような場合でも、学生の意見を尊重し、一人ひとりの持つ個性や感性を大事に育みながら、接することを大事にしている。また、授業においては「正解がない」課題に取り組み、一人ひとりが自分なりの意見を述べ、異なる意見を尊重できる雰囲気づくりを心掛けている。

3.2. 一人ですることには限りがある

学生には卒業までに、社会で求められている力を養い、即戦力になれる力を身に付けて欲しい、と願っている。その為、授業を行う上で、一人で教育するのではなく、社会で

活躍されている多職種の方々の力を借り、産官学で連携しながら教育を行いたいと考えている。「グローバル・スタディーズ」を始め、2021年度から担当する新科目（「アドバンスト・グローバル・ビジネス」や「異文化理解」）においても、地元の企業や行政の方々の協力を仰ぎ、また本学の他学科・専攻とも連携しながら、社会のニーズに応えられるような授業を実施し、グローバルな感覚を持ちながら、地元熊本に貢献できるグローバル人材を育てたい。

3.3. 自己理解・他者理解

異文化間での交わりには様々な課題が発生する。それは海外に限ったことではなく、国内でも同じだ。そして多くの課題は人間関係に関係する。その為、自己と他者の様々な違いについて学び、自分がどのような人なのかを知った上で、他者を受け入れることが大切になる。自分のアイデンティティを大切にしながら、自分と異なる相手とコミュニケーションできる力を身に付けられるよう、様々な課題をチャンスだと捉え、理解を深めることを心掛けている。

4. 教育の方法

グローバル化する環境に適応できるよう、異文化理解、多様性、考える力、自らの意見を発信する力、コミュニケーション力、積極性を養いながら、自己理解・他者理解を深め、自分と異なる考え方や価値観に気づき、尊重できることを目的に、グループワークや調べ学習、などアクティブラーニングを中心とした講義を実施している。また、様々な分野で活躍している方々をゲストティーチャーとして招き、世界や社会の現状を学べるよう工夫している。

今年度はコロナの為にアクティブラーニングを取り入れることは難しかったが、できる範囲で、教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている

4.1. ワークショップ形式でのグループワーク

「フレッシュマンゼミ」及び「特別研究」において、学生の主体的学修を目的に、ブレインストーミングやフリップチャートを使用しての発表を取り入れた、ワークショップ形式のグループワークを行っている。

また、来年度の新科目においても、グループワーク形式を取り入れ、たくさんの異なる意見をシェアできる環境を作る予定だ。

4.2. 調べ学習

「特別研究」では、各自で興味のある異文化圏を選び、それについて調べ、パワーポイントを使用して発表後、ディスカッションを行っている。また、「英語 II」（保育コー

ス)では、英語を学ぶだけでなく、異文化理解の一環として、学生各自が興味を持った異文化圏の子育てや保育事情について調べ、それを日本語で発表する授業を行っている。

4.3 外部講師による講義

自分が大切にしている理念(3.2.)に基づき、「グローバル・スタディーズ」の授業では、社会のグローバル化や異文化理解、SDGsをテーマに、多様な講師による授業を実施している。来年度の新科目においても、外部講師として多様な職種の方々をお招きする予定だ。

4.4 その他

「特別研究」では、ドキュメンタリー映画の観賞や、自己理解・他者理解を目的とした「コラージュ制作」を取り入れた授業も行っている。映画観賞については、レポートを書かせ、それを基に全員でディスカッションする授業を行っている。

5. 教育改善のための努力

学生からのフィードバックを含め、より良い授業づくりができるよう日々努力している。学生からなかなか建設的な意見を聞くことは難しいが、学生たちが満足してくれている教育内容や方法は引き続き取り入れ、授業中の様子などから、改善が求められると感じられることに関しては、新たな教育方法を取り入れたりして、工夫している。また、自分が向上し続けられるよう、前期と後期で内容が同じ授業でも、毎回少しずつ違う授業を行っている。

5.1. 改善努力 授業評価アンケートと授業改善報告書

(添付の「向上計画」を参照)

6. 教育の成果・評価

(添付の「向上計画」を参照)

7. 今後の教育に関する課題と目標

世の中の変化を敏感に察知でき、学生たちに社会で求められているスキルや知識を養えるよう、私自身が常にアンテナを張り、新たな取り組みや面白いビジネスなどを行っている人や企業・団体について調べるようにしている。また、そのような人たちに積極的にコンタクトを取り、話を聞き、講師として招き、彼らと一緒に学生たちを育てたい、と思っている。担当する授業を通して、世の中には私たちも知らない仕事やビジネスがたくさんあって、長い人生の中で選択し、挑戦できることもたくさんある、ということ

を学生たちに伝えたい。そして、人生には「成功」も「失敗」もなく、何度でもやり直すことができる、ということも。そのため、学生たちが自分を受け入れ、様々なことに興味を持ち、視野を広げ、多様な人々と関わりながら成長できるような授業をしたいと思っている。

8. 参考資料

- (1) 担当科目シラバス
- (2) 授業評価アンケート結果（「向上計画」を含む）